

別冊

おいしいだものごたり

～資料館資料編～

■特別展「真下慶治と大石田

～町内の最上川を中心に～」より

資料館では現在、企画展「真下慶治と大石田～町内の最上川を中心に～」を開催中です。真下慶治と聞くと、やはり最上川の絵を思い出すのではないのでしょうか。それも雪景色の中の最上川で、川の上空はどんよりと厚い雲に覆われているかもしれません。今回はその真下慶治が描く雪景色の曇り空に焦点をあててみたいと思います。

真下慶治は昭和6年(1931)新莊中学校(現新庄北高)卒業後、文化学院美術部に入学、洋画家の石井柏亭や有島生馬、山下新太郎らの指導を受けました。その後も熊谷守一ほか多くの先達に学びましたが、終生師と仰いだのは石井柏亭でした。その柏亭からある時ふと「君は雪国にいるのだから、雪景色を描いてみてはどうか」と勧められます。そこで訪れてみた最上川の雪景色の美しさに衝撃を受け、以来雪と最上川が生涯のモチーフとなったのだといいます。



▲雪の最上川(来迎寺)

晴れ間の少ない山形の冬に現場で描くため、その空が厚く重い雲に覆われているのは必然ともいえます。ただ、雪国の人々にとってただ暗く陰鬱な曇り空はつらく長い冬の象徴ともいえ、ややもすると忌避感を覚えてしまうものです。正直なところあまりじっくり鑑賞したくはないかもしれません。しかしそこをじっと堪えて、逆にその灰色の空を観察してみると、どの作品も同じ平坦な空と思われたそのグレーに、驚くほど変化や表情があることに気付くはずで

す。展示中の『雪の最上川(来迎寺)』の空は、グレーの中に赤や黄の要素を見つけることができます。これによりこの雲は思ったほど厚くはなく、その奥にはきつと陽の光があることを感じることができます。また、『冬の下河原』の空は、紫がかかった灰色をしています。降る雪は描かれていないものの、空の灰色の濃淡や滲む背景から細かな雪が舞っているようです。真っ赤に染まる夕焼け空でなくとも、ぼんやりとほの明るい、冬の早い夕暮れであることが確かに伝わってきます。これらはほんの一例ですが、真下慶治の描く曇り空は決して一様ではなくそれぞれに複雑な色彩があり、それらが時間帯や天候など、描かれた状況を表すヒントとなっています。このことは空に限ったことではなく、最上川の様子や積もった雪の描き方にも同様のことがいえます。特に雪景色に日常的に接している私たちはより敏感にそれを感じられるはずで

す。ぜひ資料館へお越しください。

特別展「真下慶治と大石田～町内の最上川を中心に～」は11月5日(日)まで



大石田町公式アカウント開設

LINEはじめました

防災情報などを
受け取ることができます。

友だち登録を お願いします!

登録方法

右の二次元コードを読み
取って友だちに追加して
ください。



大石田町公式LINE

防災放送の内容を

電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロディ等)放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル: 0237-48-8444

■総務課総務グループ TEL.35-2111 (内線218)

町の人口 令和5年9月1日現在

世帯数	2,245戸	(-1)
総人口	6,190人	(-7)
男	3,070人	(-3)
女	3,120人	(-4)

(8月中の異動)

出生	1人	転入	5人
死亡	9人	転出	4人

※この人数は外国人も含めたものです。